

研究課題名	CLPTM1L (cleft lip and palate transmembrane protein 1-like)の発現と再発危険因子をもつ子宮頸癌に対する術後補助化学療法の効果予測に関する検討
研究の意義・目的	CLPTM1L (cleft lip and palate transmembrane protein 1-like)はアポトーシス（生物を構成する細胞が自分の役目を終えたり、不要になると、みずから死ぬ現象）を制御することにより抗がん剤の抵抗性に関与していることが分かっています。手術の際に摘出した標本におけるCLPTM1Lの発現と、再発危険因子をもつ子宮頸癌に対する術後補助化学療法の効果との関連を調べることで、治療効果を予測する因子を見つけることが目的です。
研究を行う期間	機関の長の実施の許可日～2024年3月
研究協力をお願いしたい方(対象者)	2014年1月～2020年12月に大阪市立大学医学部附属病院の婦人科で、子宮頸癌に対して広汎子宮全摘術を受けられて術後補助化学療法を実施された方が対象となります。
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。 試料：【手術の際に摘出した組織】 診療情報等：【病歴、診断名、年齢、性別、既往歴、検査データ、CT画像、MRI画像】
試料・情報の他機関への提供	この研究は大阪市立大学医学部附属病院婦人科のみで行い、他の機関に試料・情報は提供いたしません。
この研究を行っている共同研究機関	この研究は大阪市立大学医学部附属病院婦人科のみで行います。
試料・情報を管理する責任者	大阪市立大学大学院医学研究科 女性病態医学 研究責任者 角 俊幸
本研究の利益相反	利益相反の状況については研究者等が利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。 本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力をしたくない場合	下記に連絡することでいつでも本研究への協力を拒否することができます。また、研究への協力を断っても、診療に関する不利益等を受けることはありません。
連絡先	大阪市立大学大学院医学研究科 女性病態医学 福田 武史 電話番号：(06) 6645-3862 メールアドレス：tfukuda@omu.ac.jp